

Book Review



月刊「デンタルハイジーン」別冊 齲蝕の“削らない治療”を担う歯科衛生士のための カリエスコントロール 5つのレシピ

伊藤直人 著



Reviewer

西川義昌 Yoshiaki Nishikawa
(鹿児島県・すみよし歯科)

AB判, 136頁
カラー
定価 3,960円
(本体 3,600円+税 10%)
医歯薬出版刊



2020年に大ヒット書籍『カリエスブック』を出版し、2023年には翻訳本『デンタルカリエス エッセンシャル』(大庭俊太郎先生との共訳)を手がけた伊藤直人先生が、デンタルハイジーン別冊『カリエスコントロール 5つのレシピ』を上梓されました。

本別冊は、カリエスコントロールをメインテーマに、『カリエスブック』で提示された齲蝕の5つのリスク因子についてより深く、より実践的に書かれ、臨床例や製品情報、付録の資料なども豊富に盛り込まれた、とても読みやすい内容となっています。

伊藤先生は開業された当初、真面目に歯科医院へ通っているのに次々齲蝕ができ、修復治療を繰り返しながら次第に歯を失っていく患者さんたちがいることに愕然としたと言います。歯を削って詰めても時間の経過とともにま

た齲蝕が始まるのを目にして、「削る治療」では齲蝕はなくなる、齲蝕は治癒しないのだということを痛感し、齲蝕の活動性をコントロールする「削らない治療」へと臨床をシフトしたのだそうです。

本別冊では、まず第1章でカリエスコントロールの概念についてわかりやすく解説されており、第2章でカリエスコントロールを成功に導くための5つのレシピ〔バイオフィルム(歯磨き)、フッ化物、糖(飲食)、酸、ドライマウス(唾液)]を紹介、第3章では実際の「削らない治療」の流れが提示されています。齲蝕は多因子が複雑にかかわって進行する疾患ですが、伊藤先生が提唱するレシピはシンプルかつ定量的で、誰もが無理なく日常臨床に活用できると思います。

個々のレシピの科学的な根拠も丁寧

に示されているので、フッ化物の濃度や、糖の摂取回数がなぜ1日4回を目安にするのかなど、すべてのレシピに説得力があります。また、バイオフィルムの下から齲蝕が起る機序や、齲蝕と酸蝕の違いなどもわかりやすく解説されていますし、ドライマウスの臨床像や酸蝕症の写真もとても説得力があり、読み進めるにつれて齲蝕の本質についての理解も深まります。

臨床写真やイラストがふんだんに使われていて楽しみながら知識を得られるうえ、伊藤先生のクリニックで実践されているカリエスコントロールの臨床も大いに参考になります。歯科衛生士さんに向けて書かれた別冊ですが、カリエスコントロールを自院のシステムに採り入れたい歯科医師にとっても、優れたテキストになると確信しています。